

校務支援システム開発プロジェクトの概要

－ 学校教育の情報化を目指して －

沖縄県立総合教育センター IT教育課

長期研修員 神谷 一夫 与那覇善栄

仲地 典一 友利 敏博

<http://it.open.ed.jp/project/>

キーワード：中学校，高等学校，特殊教育諸学校，校務支援システム

1. はじめに

沖縄県立総合教育センターでは、今年度、校務支援システムプロジェクトを立ち上げ、中学校においては成績処理、出席簿管理、通知票作成などを中心とした「中学校生徒情報管理システム」、高等学校においては中高データ連携のための「中学校用高校入試事務処理システム」と「勤怠情報検索システム」を開発した。また、特殊教育諸学校においては、小学部、中学部、高等部で児童生徒の動態や健康情報を共有できる「健康観察簿システム」の開発を行った。

さらに、中学校・高等学校・特殊教育諸学校で共通に利用できる学校教育用グループウェアを開発した。

ここでは、学校教育用グループウェアと校務支援システム開発プロジェクトの概要について紹介する。

2. 学校教育用グループウェアについて

これまで、グループウェアの多くは、一般の会社や行政事務の利用を前提として開発されたものがほとんどであり、学校の業務内容にそのまま当てはめて利用することは難しかった。そこで、沖縄県立総合教育センターでこれまで活用されてきたグループウェア WebMagic (株 OCC) を学校教育用グループウェアとして活用するため、(株) OCC と共同でカスタマイズを行った。授業計画機能については、次のコンセプトでカスタマイズをおこなった。

教員の主な業務（スケジュール）は授業であり、校務の情報化を進めるためには、このような教員の業務（スケジュール）である授業計画（週案作成、授業時数計算）をシステム化する必要がある。これまで、授業計画（週案、時数計算）は個別に帳簿で作成しており、教員間で共有化されることはほとんどなかった。「学校教育用グループウェア」の授業計画（週案作成、授業時数計算）機能を活用することにより、各教科や学級担任の授業計画（週案）を教員間及び全体で共有化が実現する。また学級ごとの授業計画（週案）を自動的に作成することができ、教科担任と学級担任の連携に役立つなどの教育効果が期待できる。さらに、各教師の授業時数計算や全体の授業時数計算を自動的にリアルタイムで行うことができ、計画的な授業の実施とともに授業時数集計等の校務の効率化を図ることができる。

それ以外の学校教育用グループウェアの主な機能は以下の通りである。

1. メール
2. スケジュール
3. 授業計画
4. 学年別時間割
5. 掲示板
6. 行事予定
7. 設備予約
8. 職朝連絡票
9. ワークフロー
10. 文書管理
11. 電子会議室
12. 設定画面

2. 1 画面構成

トップ画面には、主に

1. 行事予定、
2. 授業計画、
3. 掲示板の3つの機能からなり、未読メール数と、掲示板未読件数が表示される。

2. 2 機能

- ① ユーザー毎のアクセス権（作成、参照、拒否）を管理者モードで細かく設定できる。
- ② 授業計画、掲示板、行事予定において文書ファイルの添付機能。
- ③ Excel ファイルでの出力機能：学習指導案週計画表、行事予定、職朝連絡表

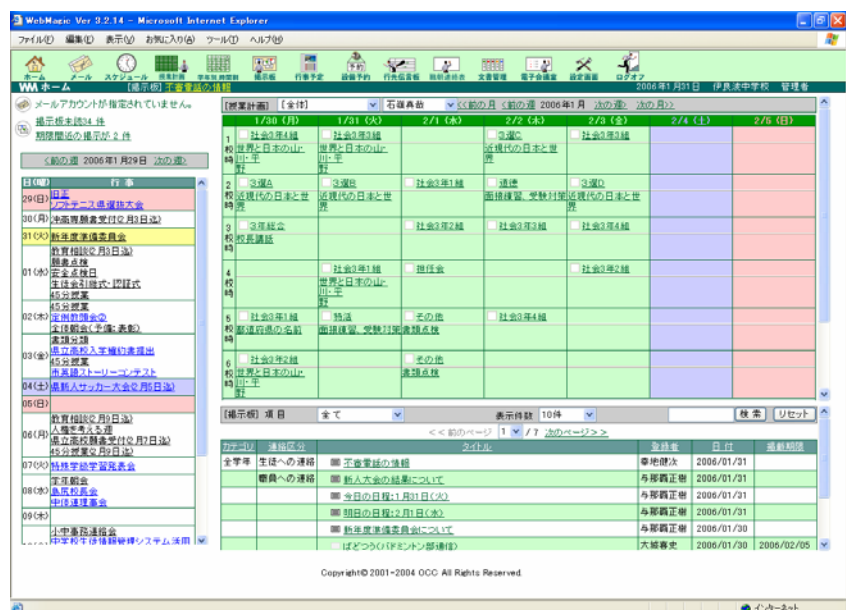


図1 学校教育用グループウェアのトップ画面

2. 3 学校教育用グループウェア活用により予想される教育効果

学校教育用グループウェアを導入し、全職員で活用した場合に期待される教育効果は次の通りである。

- ① 授業計画（週案）作成作業の効率化【作成作業の効率化】
- ② ネットワーク対応による利便性向上【利便性の向上】
- ③ 全職員の授業計画（週案）の共有化による授業の向上【共有化の実現による教育効果の向上】
- ④ 授業計画（週案）のリアルタイム時数集計による利便性及び、事務の効率化【校務処理の効率化】
- ⑤ 掲示板のグループ別表示、既読・未読の確認機能による連絡事項の迅速・確実な伝達【情報伝達効率の向上】
- ⑥ データ一元管理によるセキュリティの確保【セキュリティの強化】

2. 4 成果と課題

中学校 1 校、高校 2 校、特殊教育諸学校 1 校でシステムの検証を行った結果、次のような成果と課題があった。

成果：期待される教育効果のうち、①週案作成作業の効率化、②ネットワーク対応による利便性の向上、④事務の効率化、⑤情報伝達効率の向上、⑥データ一元管理によるセキュリティの確保については、概ね実現することができた。

課題：期待される教育効果のうち、③全職員の授業計画（週案）の共有化による授業の向上について今後も継続して検証を行う必要がある

3. 校務支援プロジェクトの概要

今年度本プロジェクトでは、中学校、高等学校、特殊教育諸学校における I T 化の現状と課題をふまえて次の項目を中心にシステム開発を行った。

3. 1 中学校における研究

「中学校生徒情報管理システム Ver3.0」（沖縄県教育委員会）において、次の機能を追加開発した。

- ① 2 学期制、3 学期制に対応した「通知票」帳票の作成（12 種類）
- ② 生徒情報の共有化のための「家庭調査票」帳票の作成
- ③ 生徒の出席状況などをリアルタイムに全職員で全学年、全学級を把握できる「出席簿管理システム」

成果：システムの機能追加と、改善については計画通り進んでおり、期待された教育効果もほぼ実現できている。

課題：出席簿管理機能の活用についての検証、選択教科の実施方法、通知票の様式等多様なニーズへの対応

3. 2 高等学校における研究

- ① 「勤怠情報検索システム」の開発
- ② 中高データ連携のための「中学校用高校入試事務処理システム」の開発
- ③ 「生徒欠席連絡受付」、「保健室利用生徒動態管理システム」の開発

成果：「勤怠情報検索システム」を活用することによって、生徒の勤怠状況を担任だけでなく、学年主任、生徒指導、管理者でも簡単に把握することができ、詳細な分析で配慮すべき生徒を早い段階で発見し対応することができるようになった。

「保健室利用生徒動態管理システム」は、保健室での利用状況がネットワーク上で把握でき、有効であった。

課題：「勤怠情報検索システム」は、勤怠状況の推移のグラフ化、印刷機能の強化をはかるなどの改善が必要である。

3. 3 特殊教育諸学校における研究

小学部、中学部、高等部で児童生徒の動態や健康情報を共有できる「健康観察簿システム」の開発

成果：リアルタイムな出欠把握による指導、介助体制の迅速な調整等において活用の成果があった。養護教諭の日常の業務である全児童生徒の健康観察業務の効率化が図れた。

課題：まだ一部の職員での利用となっており、全職員での利用の検証が必要である。